

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもホリデー（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和7年2月3日		～ 令和7年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	令和7年2月3日		～ 令和7年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年4月7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	まだまだ発達に個人差のある幼児期の子に対し、その子の現状を詳しく把握し受け入れて、段階に合ったアプローチをする。	子どものアセスメントで現状を知り、職員みんなで行動を知り、どう支援していくか話し合っている。	保護者、関係機関も交えて個別支援計画を立案し、保護者に承諾を得る。
2	幼児期に必要な身体づくりと外気に触れて元気に活動することに重点を置いている。	外に行くことにより、自然に触れ、交通ルールも学び、公園での遊具に慣れ、体のさまざまな感覚を養っている。	近隣センター、公園などで他の子どもや地域の大人との交流を図っていく。
3	小集団から、集団生活のリズムやコミュニケーションを得るための支援を行っている。	朝の会などでは席に着き、話を聞く、また順番を守るなど、集団での最低限の行動を守れるように支援している。	友だち同士のやり取りの仕方を遊びの中で学んでいる。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	部屋が1部屋しかないこと。	他の事業所と同じ建物の内にあるため、空間が限られている。	なるべく1日のうち外に出て気分転換を図る。部屋に小さな小部屋を作り、クールダウンできるように改善する。
2	建物の2階に位置するため、階段の行き来に危険が伴うこと。	1階は他事業で利用しているため、1階では活動できない。 また、2階への行き来は階段のみで、他の手段はないこと。	階段の上り下りは児童にとっても体づくりになっている。 階段では必ず職員が付き添い、事故の無いように注意している。これまで児童の階段の事故は起きておらず、これからも注意しながら見守っていきたい。
3			